

平成27年度生月中学校のみなさんへ

生月中学校には、生徒信条として「今日よりは（ぞ）幼心を打ち捨てて人と成りにし 道を踏めかし」という江戸時代の末期に明治維新の指導者となる人材を育てた吉田松陰先生の言葉があり、今日からは、親にすがって甘えるような心を振り切り、ひとり立ちした人間になるために、力強く歩んで行きなさい。ということを言っています。この、生徒信条を、生月中学校で生活を送る上での基本的な考えとして常に心に持ち続けて欲しいと思います。

生月中学校のみなさんへの3つのお願い

まず、1つめは、「多くのことを学び、自ら考え、判断し、行動できる力を身につけてほしい」ということです。皆さんの3年間の中学校生活は、これからの人生の基礎を完成させる大きな節目の時期です。

また、心と体、そして様々な能力が大きく伸びる時期でもあります。大切なのは、大きな可能性を秘めた、この時期を「どのように過ごすか」ということです。ぜひとも、失敗を恐れず、何事にも積極的に取り組み、自分自身の力を高め「生きる力」をしっかりと身につけてください。

2つ目は、「お互いを尊重し認め合い、思いやりの心をもってほしい」ということです。新たな出会いの中、今日から新しい生活が始まります。ここで大切なのは、「思いやりの心」を持つということです。「思いやりの心」とは「相手の立場や気持ちを理解しようとする心」です。一人ひとりに個性の違いがあるのは当然のことです。「思いやりの心」を持ち、互いに尊重し、認め合い助け合い協力して、強い絆で結ばれた学級・学校をつくっていきましょう。

3つ目は、「諦めないで最後まで努力すること」です。私たちは、何かを始めるときに、「よし頑張るぞ」という気持ちになります。しかし、疲れたり、自信をなくしたりすると、諦めてしまうことがあります。挑戦をすれば失敗もあります。

そのときこそ「諦めないで最後まで努力する心」が必要になります。フランスの昆虫学者ファーブルは、「忍耐と反省をもってすれば、君は困難を突破することができる」と述べています。人間は困難に陥ったときに、あきらめない強い心、反省する心、耐える心をもつことが大切です。これから多くの事にチャレンジするみなさんは、多くの壁にぶつかることでしょう。その時に、乗り越えられない試練は無いという気持ちでこれからの学校生活歩んで欲しいと思います。

しかし、どうしても自分では、乗り越えられない壁があったときには、先生達にいつでも話をしてください。みなさんと一緒に、その壁を乗り越えていきましょう。

「多くのことを学び、自ら考え、判断し、行動できる力」
「お互いを尊重し認め合い、思いやる心」
「諦めないで、最後まで努力する心」

この三つを心がけて中学校生活を送ってほしいと思います。

平戸市立生月中学校長 木寺 剛

